

新発田税務署長賞

青春を支える税金

新発田市立 第一中学校 三年 桐 生 紗恵子 さん

私にとって部活動は青春の全てだ。私は、柔道部に所属している。北信越・全国大会出場を目指して仲間たちと毎日練習してきた。そして、今年の県大会で団体、個人ともに優勝し、北信越大会、全国大会への切符を手にした。

今年の北信越大会は石川県で一泊二日、全国大会は徳島県に四泊五日という長旅だった。大会に出場するには参加料や旅費などたくさんのお金がかかる。そこで私は親に、大会に出るためのお金はどのくらいかかるのか尋ねてみた。すると親は、お金はたくさんかかるけれど、そのお金は学校が出してくれている、つまり税金が使われているのだと教えてくれた。このことを知って私は、もし大会の費用が個人負担だったらどうなるだろうと考えてみた。もし費用が個人負担だったら、金銭的に余裕のない家庭は大会への参加を断念するのではないだろうか。そうすると、大会への参加資格は金銭的に余裕のある中学生のみになり、全ての中学生に平等に機会を与えられているとはいえないだろう。税金は、みんなに平等に大会に参加する権利を与えているのだ。

また、全国大会に出ると市から激励金をもらうことができる。私は、もしかしてこれも税金か？と思い親に尋ねてみた。やはりこれも税金が使われているようだ。では、毎日練習している学校の柔道場はどうだろう。予想通りこれもまた税金で作られたものだった。

私は今まで、税金は払わなければいけないちょっと厄介なものだと思っていた。しかし、この全国大会を通して、大会に出られているということ、まず柔道ができているということは税金のおかげだったのだとわかった。柔道は私に、さまざまな経験、かけがえのない友達を与えてくれた。生活をしながら払っている税金でこのような経験・友達を得ることができるのなら、私にとって税金を払うことは全然厄介なことではない。

税金のおかげで、私の一度しかない青春はとても充実した素晴らしいものになった。私は、未来の中学生にも自分たちのように青春を謳歌してほしい。だから、私はこれからも税金を払い続けようと思う。